校長室だより～燦燦～ №８８６

スカイライン

2023.10.31

今日は、１０月３１日である。１０月が終わる。昔から１０月が好きである。１０月に対するイメージがよい。

今年の場合だが、わずか１か月の間に、夏と秋と初冬まで経験できた。今年の夏は暑かった。ただならぬ暑さだった。その余韻が９月まで続き、１０月になっても残った。その後は、一気に秋となった。急だった。秋を味わう準備ができたかと思ったら、冬の匂いがしてきた。空も初冬の雰囲気を醸し出していた。ここ数年、どんどん秋が短くなっている。Ｔシャツからコートである。

この１０月は、数日間にわたって、朝から快晴の日が続くことが何度かあった。朝、吾妻山に向かって車を走らせる時間がある。青空の下、一切経山の噴煙がまっすぐ上がっている。吾妻山から安達太良山まで、きれいに見渡せる。雲一つない。何だか気分がよい。天気というのは大事である。

風が穏やかで、青空が広がる日が多いのが、１０月である。行楽の秋である。天気がよいと、山々の紅葉が、徐々に山の麓へと進んでくるのもよくわかる。山の色が紅へと変わっていく。昔、奥会津の小学校に勤務したことがある。天気がいい日に、校長室から何気なく外を見る。朝と昼と夕方とで、紅葉がどんどん深まっていく様子がわかる。わずか１日で、山の色合いが変化していくのである。そのことに気づいたときは、感動したものである。南会津の中学校に勤務していたときにも、きっと同じようなことが起こっていたはずである。そのときは、教頭だった。とてもとても山を見る余裕などなかった。もったいないことをした。

こうも天気がよいと、出かけたくなる。問題は、週末の天気である。どこで紅葉を楽しむかである。毎年、紅葉を愛でる場所が変わる。近年では、遠くではなく、近場の紅葉スポットに目がいくようになった。意外とある。今まで知らなかっただけである。

桜もそうだが、紅葉は、場所を変えていけば、約１か月ほど楽しむことができる。本当は、有名な紅葉スポットに行きたいのだが、週末にチャレンジすれば、その結果はわかっている。大変なことになる。

数年前、休日に吾妻スカイラインに挑んだことがあった。早起きして出かけるのであればわかる。そんな努力もせずに、とりあえず行ってみた。案の定である。なかなか進まない。まあ、こんなものだろう。動いたかと思ったら、わずか数メートルである。一向にたどり着きそうもない。そろそろあきらめようかという考えが浮かんできた。

すると、見たこともない真っ赤な警告ランプが点灯した。よからぬにおいもしてきた。乗っていたのは家人の車だった。イタリアの車である。信用できない。これは、まずいのではないか。家人と意見が一致した。戻るぞ。とはいっても、山道である。容易にはＵターンはできない。

一瞬のすきを突くように、半ば強引にＵターンを試みた。うまくいった。だが、まだ安心はできない。いつ車が止まるかわからない。最悪の場合は、下りなのだから何とかなるか。緊迫した時間が過ぎた。帰りはすいすいだった。ようやく平地に戻ることができた。

とりあえず、マニュアルを開いた。すがるように、ディーラーに電話をした。どうにか警告ランプは消えた。だが、不安は消えなかった。数日後、病院に行くように、ディーラーに車をもっていった。説明を受けた。特別な故障ではないことは理解できた。

あれからは、いつも眼前に認識できる吾妻スカイラインには挑戦していない。車のことが気になる。でも、いつか紅葉の時期に行ってみたいとは思っている。スカイライン、それは近くて遠い存在である。